

- 01 FP Topics
- 02 白石茂治の Market report
- 02 Topics 基本 word
- 03 深野康彦の投資道場
- 04 知って楽しい! ライフプラン
ランキング BEST10

東芝保険サービス株式会社 リテール企画部 営業支援グループ
〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町 72 番地 34 ラゾーナ川崎東芝ビル2階 Tel. 044-578-1028

2022.06 vol.80

FP
Topics

新幹線同乗サービスの開始も目前! ?

ますます家族化するペットの養育費について 確認しておこう!

4世帯に1世帯以上がペットを飼育しているといわれる今日、先日もJR東日本が犬などのペットをケージから出して乗客と同席できる新幹線内サービスについて実証実験を開始したとのニュースがありました。一部の飛行機では既に同乗サービスが試みられていることや、年々ペットが同室に宿泊できるホテルや旅館の数が増え、費用が高額であってもすぐに予約が埋まる状況を鑑みると、新幹線にペット同乗専用号車が出現することもそんなに先の話ではなさそうです。

最近ではコロナ禍のもと、ペットに癒しを求めたり、家族とのコミュニケーションを深めるために飼育する人が増えたとされていますが、家族同然、いや家族以上の存在だからこそ、長きにわたり責任を持って生活を共にしたいものです。ペットの心身にかかわる知識や情報はもちろんのこと、ペットに係る養育費についてもしっかりと把握しておきましょう。

✔ ペット積立やペット保険 ✔ ペットの長寿化に備えよう!

図表は犬と猫、それぞれの年間にかかる費用の一

例です。家計管理上においては、毎月の家計費の一部として捻出されていることが多いようですが、毎年のワクチン接種費用など、事前から予測できる費用については分別して積み立てておかれるとよいでしょう。

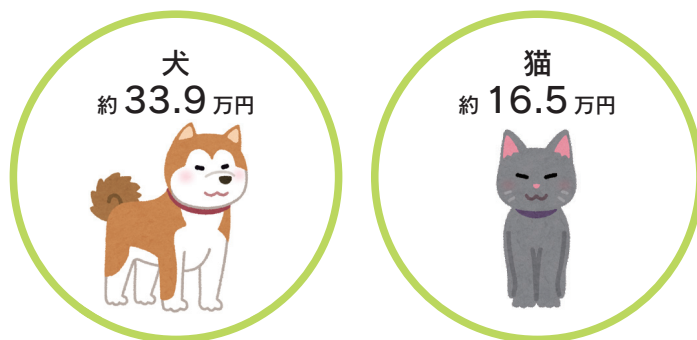
また、ペットも長寿化傾向にある現在、加齢に伴う歯周病や白内障の進行など、人間同様のリスクが存在します。健康保険が適用されないペットのために、最近はペット保険を提供する保険会社も増えています。加入を検討される場合には補償範囲や補償割合はもちろんのこと、加齢するにつれて保険料がどの程度まで上昇するのかなど、費用面についても確認されるとよいでしょう。

最近、ペットシートはふるさと納税のお礼の品でまかない、浮いた資金で保険に加入する、など、やり繰り上手なお話をよく耳にします。ペットも家族の一員だからこそ、子どもの養育と同様に長期的な視点を持って準備しましょう。

* 「Topics 基本 word」は P2 をご覧ください。

ペットにかかる費用例

■ 1年間にかけた費用の一例 [2020年]



※ 1年間にかけた費用の内訳
ケガや病気の治療費、フード・おやつ、サプリメント、しつけ・トレーニング料、シャンプー・カット・トリミング料、ペット保険料、ワクチン・健康診断等の予防費、ペットホテル・ペットシッター、日用品、洋服、ドッグランなど遊べる施設、首輪・リード、防災用品、交通費、光熱費（飼育に伴う追加分）

アニコムホールディングス「アニコム家庭どうぶつ白書 2021」より株式会社ノースアイランド作成

白石茂治の

Market report



日本株式の見通し (2022年6~7月)

米国株の動向が最大の焦点だが 日本株の割安に注目する向きも

ロシア・ウクライナ問題は夏までに決着と見ていますが、ロシアの核使用のリスクはまだ捨て切れないと考えます。株式市場の最大の焦点は米国株の動向。年初から20%調整が必要としていましたが、NYダウの3万ドル割れがあれば、世界的に株式市場への資金流入が起こってくると見ていいのではないのでしょうか。

その中で日本株の割安放置が目立っています。特にPBR(株価純資産倍率)は1.3倍と、世界の主要国では最低の水準にあります。日本の構造問題の深刻さと政治の貧弱さが響いていると思われる。

ただここへきて、海外投資家が日本株を少し買い越してきました。色々な課題を抱えていても、この経済大国の株価はあまりにも割安との判断が働いているでしょう。

ここは日本の若・中年層も日本株への関心を少し高めてもらいたいものです。海外と国内の両方の投資家の買いが増加すれば、割安に放置された日本株の新しい動きに注目する投資資金が流入してくる可能性が出てくるのではないのでしょうか。日本市場の存在感が高まることを期待しています。

白石 茂治
ノースアイランド投資顧問株式会社 代表取締役

半世紀にわたり日本の金融に従事。山一投資顧問、ソシエテジェネラル時代は企業アナリスト、ストラテジストとして活躍。日本初のオイルマネーの運用担い手として金融発展にも貢献。山一投資顧問時代は日本版ラップ口座の企画開発など、個人投資家の市場参加への開発にも注力した。これまで、参議院自民党政策審議会など日本の中枢を司るメンバーの金融教育を担当してきたほか、現在もTVや新聞等のメディアで活躍中。



為替市場の見通し (2022年6~7月)

行き過ぎた円安を修正する局面 政策当局はまだ本格的に動けず

円ドル相場は5月には131円台と想定外の円安となりました。日本のファンダメンタルズの悪さ、政治の決断の遅さ、金融当局が現在の政策継続の姿勢、など様々な要因が重なったものと思われる。

為替の決定要因は長期、中期、短期に分けて様々な観点から分析していますが、ここまでの円安は想定できませんでした。中央銀行の金融政策、日本の国際収支悪化、金利差の継続を考えると、円安の基調はまだ続くでしょう。夏場まで120円台半ばでの動きを予想しています。

一方で長期的な為替トレンドを見る購買力平価説では、生産者物価ベースで見ると1ドル=97円前後が理論値となります。日経新聞が直近に計算したファンダメンタルズに基づく均衡レートは106円台とされています。長期的な為替トレンドが円高を志向しているとの基本的な見方は変える必要はないと思います。従来は円安は日本経済に大きなプラスとの見方が多かったものの、輸出構造の変化(海外拠点の増加)や輸入依存の国内産業の増加で、円安の経済効果の捉え方はかなり変化していることに留意しましょう。

Topics
基本
word

「新幹線専用車両」最近の傾向は？

新幹線の専用車両というと、昔はbuffetや食堂車など「食」にかかわるものを中心でしたが、最近では「ライフスタイル」に応じて選択できる専用車両が登場しています。東海道新幹線が年末年始やゴールデンウィークに運行している「お子さま連れ専用車両」は、周りに気兼ねすることなく子ども連れでの帰省や旅行を行えると好評の

ようです。こちらは通常の購入方法とは異なり、ツアー商品として提供されています。

他方、最近ではJR東海やJR東日本がビジネスパーソンのための「オフィス車両」を設けています。専用車両は同じ目的を求める人の集合体ですから、座席におけるパソコン利用や携帯電話使用なども気兼ねなく行えます。

「オフィス車両」は普通車扱いで通常の旅券発行と同様にWEB等からも購入できますし、グリーン車のように追加料金が発生しない点も魅力といえるでしょう。

ライフスタイルが多様化する中、望まれる専用車両も様々です。今後の展開に期待したいものです。

有限会社ファイナンシャルリサーチ
代表 深野康彦



メディアやセミナーなどを通して、資産運用のほか、住宅ローンや生命保険、あるいは税金や年金などのお金周り全般についての相談業務や啓蒙を幅広く行う。日本経済新聞夕刊「投信番付」のほか連載多数。オールアバウトではマネープランクリニックを担当のほか、さまざまな分野のガイドを行っている。

「投資信託の人気の顔ぶれ変わらず」

乱高下が続く株式市場だが 投資信託への資金流入は継続

2022年はまだ折り返してはいないものの、資産形成を取り巻く環境は2021年と様変わり状況となっています。様々な報道などを通じてマーケット環境の変化はご理解されていると思われるので割愛しますが、世界の株式市場の乱高下と比較すれば投資家の行動は動揺していません。

投資信託協会が毎月公表している「投資信託概況(2022年4月)」によれば、ETFを除く公募株式投資信託への資金流入は4月も2,959億円の純資金流入となり、純資金流入は17ヵ月連続となっています。反面、公募株式投資信託の純資産総額は3兆2,293億円減少し、83兆8,871億円と2ヵ月ぶりの減少に転じました。国内外の株式市場などの下落がその要因のようです。

株式市場の動揺を尻目に投資信託への資金流入が続いているのは、つみたてNISAやiDeCo(個人型確定拠出年金)による積立投資の普及をあげることができますが、多額の資金流入がある投資信託の顔ぶれが変わらないのがやや気になるようです。

米国株式に人気集中 リスク管理に死角はないか

図表は昨年と2022年1月～4月の株式投資信託の資金流入額のベスト5です。運用管理費用(信託報酬)が運用成績に与える影響などを考慮すればインデックスファンドが上位なのは合理的です。つみたてNISAの対象となる投資信託もインデックスファンドが中心なので致し方ないと思います。しかしながら、2022年

1月～4月の上位3本のうち3本とも米国株だけを投資対象とする投資信託です。中・長期の視点に立てば2022年に入ってからの米国株の調整はノイズに過ぎず、時が経過すれば再び米国株は史上最高値を更新していくだろうという過去の経験則の延長で投資信託を選んでいく気がしてならないのです。投資信託の過去の運用成績は「今後の運用成績を保証するものではない」という状況にもかかわらず…。世界的な株価の調整はロシアのウクライナ侵攻の地政学的リスクの顕在化もありますが、米国の高インフレを背景とした性急な金融引締政策が震源地と言っても過言ではないはず。それでも米国株を投資対象とする投資信託に人気集中していることが筆者には解せないのです。

経験則上リスクを抑えるには「国際分散投資」が基本になることから、海外株式型投資信託を購入するなら「米国株型」ではなく「グローバル型」になるはず。資金流入ランキングでいえば「eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)」ではなく「eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)」が米国株式より上位にきてよいはず。そうならないのは投資家がリスク管理よりもリターン(収益)の向上に着目して投資信託選びを行っているからと考えられます。リスクとリターンのどちらに重きを置くかは個人のライフプランやリスク許容度などにより異なりますが、「eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)」と言いながらも実際の資産配分の約6割は米国株(2022年4月末現在)なのです。同投信のリスク・リターンは約6割も資金配分されているほぼ米国株に準じるのでは投資家は満足できなくなっているのでしょうか。資金流入額ランキングの顔ぶれが変わるか否かチェックしていきたいです。

資金流入額のベスト5の顔ぶれ ※出所：モーニングスター、QUICK等より

資金流入額ベスト5のファンド名 (2021年年間)		運用会社	資金流入額ベスト5のファンド名 (2022年1月～4月)		運用会社
1位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	アセマネ One	1位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	アセマネ One
2位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際	2位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際
3位	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	日興AM	3位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アセマネ One
4位	グローバルAIファンド(予想分配金提示型)	三井住友DS	4位	ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド	アセマネ One
5位	SBI・V・S&P 500 インデックス・ファンド	SBIAM	5位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJ国際



BEST 10

「iDeCo (個人型確定拠出年金) への加入率が 高い都道府県ランキング」

iDeCo(個人型確定拠出年金)は、セカンドライフの収入の柱として位置付けられる公的年金にプラスして給付を受けられる私的年金制度の一つです。公的年金と異なり、加入は任意で、自分で決めた額(掛金)を積み立てて運用し、60歳以降に年金として受け取ることができます。掛金の拠出時、運用期間中および給付金の受取時に、税制上の優遇措置を受けられることから、セカンドライフ資金のための資産形成を行う方法の一つと位置付けられています。

iDeCoの開始当初は、自営業者や企業年金のない会社員等のみが利用できる制度でしたが、現在では、企業年金のある会社員や、公務員、専業主婦等も利用できるようになり、より身近な存在となっています。今年の4月からは、公的年金の受給開始時期の選択肢が、60歳~75歳の間に拡大されたことに伴い、iDeCoの受け取り開始年齢の上限が75歳まで拡大され、5月からは、これまで60歳までしか加入できなかったiDeCoに、一定の条件を満たせば65歳まで加入できるようになるなど、より多くの方がより長い間資産形成ができる制度に変わってきています。先般岸田政権が「資産所得倍増プラン」を発表しましたが、この流れを受けて、iDeCoの制度についてもさらなる拡充があるかもしれません。

人生100年時代、これまでよりも長くなる老後に備えて、このような制度変更には十分アンテナを張っておきたいものです。まだiDeCoを利用していない

方も、より豊かな老後を送るための資産形成方法の一つとして、iDeCoへの加入を検討してみたいかどうかでしょう。

【参考】
国民年金基金連合会
「iDeCo(個人型確定拠出年金)の制度の概況」(令和3年3月末現在)
https://www.ideco-koushiki.jp/library/pdf/system_overview_0303.pdf
国民年金基金連合会「iDeCo公式サイト」
<https://www.ideco-koushiki.jp/>
厚生労働省「2020年の制度改正」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nenkin/nenkin/kyoshutsu/2020kaisei.html>



FP プチ日記

今年は長野の金融機関における新セクション構築の人材育成を担っているため、長野市に出かける機会が増えています。

長野といえば善光寺さま、そして善光寺さまといえば現在7年に一度の御開帳期間ということで、研修前の早朝6時から数名のFPで連れ立ってお参りしてきました。そこで出逢ったのがこ

ちらの写真の「幸先昇運守」です。「闇」の袋の点線の部分を自身の手で破って中のお守りを取り出すというもので「何だかとてもご利益がありそう!」と思い授かってきました。

まだ「闇」の袋は破いていません。皆さまの幸先も願いながら、今夜あたりお風呂で身体を清めてから破ってみたいと思います。



幸先昇運守